2017 年イギリス総選挙に関する考察
――労働党の対若者戦略に焦点を当てて――

豊 田　真 司　　大 野　健 太 郎

はじめに

本論文は 2017 年 6 月に実施されたイギリス総選挙において、前評判を覆し善戦した労働党の躍進を、同党の若者[1)]に対する選挙戦略と若年層の投票率が大幅に上昇したこととの関係性に焦点を当てて考察する。

第 1 節では、2017 年総選挙の結果とその背景に触れた上で、2015 年のデータを元に、今まで若年層が投票に参加していなかった背景を明らかにする。

第 2 節では、まず労働党が若年層の動員に力を注いだ理由に着目する。そのうえで、労働党と保守党のマニフェストを比較し、労働党のどのような公約が若年層に影響を与えたのかを分析する。さらに労働党が若年層を取り込むために行った具体的な選挙キャンペーンとそれらの結果を考察する。

第 3 節では、若者の有権者登録数と投票率の上昇は、労働党の勝利に影響を与えたのか。また、その具体的な影響についてカンタベリー選挙区（Canterbury constituency）を事例にして検討する。

1　2017 年総選挙の概要

1−1　選挙結果と背景

イギリスでは、2011 年に首相の解散権が制約され、下院議員の任期が 5 年に固定された[2)]。前回の総選挙が 2015 年に実施されたため、次は 2020 年に行われる予定であった。しかし、2017 年に議会の自主解散という形をとり、予定を前倒しにして総選挙が実施された。これは異例の事態であり、1974 年の 2 月から始まった議会以来の短い期間で解散

＊　社会科学総合学術院 池谷知明教授の指導の下に作成された。

した議会となった。この背景には、2016年国民投票の結果を受けてEU離脱交渉がいよいよ目前という段階になり、議会により強い基盤を欲した保守党の戦略があった。他方で2015年にコービンが党首になって以来、労働党内では混乱が続いていた。また、議会の解散が決まった時点での支持率調査では、保守党と労働党の間に20ポイント以上の大きな差が存在したため、保守党にとって議席を増やす好機であった。もし、その支持率の差がそのまま結果に反映されれば50以上の議席が上乗せされ、保守党の圧勝が予測できたために戦略は間違いではなかった（若松, 2017）という。しかし、選挙結果は保守党の圧勝という大方の予想に反して、与党である保守党が現有議席から13議席を減らし318議席となり、選挙期間中に支持率を大きく伸ばした労働党が230議席から32議席を増やし262議席を獲得した（BBC（6））。与党であった保守党は単独過半数を維持できずハングパーラメントとなったために、北アイルランドの地域政党である民主独立党（DUP）との閣外協力に合意をとりつけ政権を維持した[3]（The Guardian（10））。両党の議席数を見ると差は広いように感じられるが、得票率は保守党が42.4％、労働党が40％であったため僅差の選挙戦であったことが分かる（BBC（6））。労働党は第2党としての得票率で見れば、1970年以来一番高い数字を記録した。

以上のように労働党は選挙前の予想に反して善戦したといえる。この背景には様々な要因が考えられるが、中でも特筆すべきは、若年層の投票率の上昇である。従来、若者の投票率は低かったが、2017年総選挙で労働党はその隠れた票源を掘り起こすことに成功したのである。

1−2　投票しなかった若者

従来、若年層は投票に行かない傾向が一番強い世代であった。ガーディアン紙によると、その原因は①政治の知識がない、②各政党の主張に差異が感じられない、③個々の懸念事項がどの政党の主張にも当てはまらない、の3つであるという（The Guardian（1））。実際、2015年の総選挙の際に「若年層がなぜ投票しないのか」を調査した結果によると、「自分たちが投票してもしなくても無意味であるから」という回答が一番多く、「自分たちの考えに合う政党がない」が次に続いた（manchester 1824, 2015）。若年層の投票率が低かったのは、これまで若者の状況を改善するような政策を打ち出した政党が存在していなかった為とされる。実際、保守党政権下で大学授業料が高くなり、NHS[4]への支出制限やさまざまな公共サービスの支出削減などで冷遇されてきたため若者が保守党に希望を持つことは難しい（若松, 2017）とされた。また、保守党政権からは、若者の投票率が低いことはもはや当然であると考えられていたため、若年層向けの政策が実施されなかった（The Guardian（14））。保守党だけでなく、2010年総選挙で公約の1つとして大学授業料値上げに反対するというマニフェストを掲げていた自由民主党（Liberal Democrats）がこの公約

を守らず、保守党との連立政権下で値上げをしたこともあり、若年層の政治家への信頼は薄れていた（Independent（3））。その他にも、2014年に有権者登録制度が変わる[5]まで、学生が実家とは別に在学中の大学が位置する選挙区でも登録が可能であったことが、まだ浸透していなかったということも若年層の低投票率の理由と考えられる（Stephen D. Fisher & Nick Hillman, 2014）。

以上のように、近年の若年層は投票権を持ちながらも政治から切り離され冷遇されてきた。では、2017年総選挙は何が違ったのだろうか。以下では、労働党の選挙戦略に注目する。というのも、コービンに投票した多くの若者たちが、「コービンは自分たちを見てくれている」、「コービンは信頼できる」、「コービンは他の政治家とは違う」などと述べており、今まで選挙に参加していなかった若者の支持を獲得することに成功していたからである（The Guardian（13））。

2　労働党の選挙戦略

2−1　若者を重視した背景

なぜ労働党は若者を重視したのだろうか。まず、従来労働党を支持する傾向があるものの、必ずしも投票率が高くない若年層の状況を改善することが、労働党が選挙に勝つために必要であった。2016年のEU離脱をかけた国民投票の際には、残留派が多い若年層[6]の投票がEU残留のカギになると言われながらも、労働党は若者の動員に失敗した（The Guardian（2））。そのため、労働党には若年層を引き付ける政策が必要であったが、それがコービンが掲げた反緊縮政策[7]であった。反緊縮政策であれば、保守党の緊縮財政下で未来を抑圧されている若年層の不満を代弁し、支持を獲得することが可能であると考えたのである（Huffpost（1））。労働党の主張の中で強調されていたことは、保守党が行ってきた政策は一部の富裕層にのみ利益があるということである（labour's manifesto 2017）。そのため、コービンは演説の中で「2016年には一部の人々にのみ利益があるEU離脱が約240万人の若者の投票を欠いて決定し、さらに保守党は若者の将来を限定しイギリスがポテンシャルを発揮できていない原因とされる緊縮財政を継続しようとしている。保守党は若者が政治に無関心であればあるほど得をしている。今こそ立ち上がり、有権者登録をして自分たちの将来を主張しよう」と呼びかけた（YouTube（2））。

2−2　2大政党のマニフェスト比較

2017年5月に労働党の “FOR THE MANY, NOT THE FEW” と題されたマニフェストが公開され、保守党からも “FORWARD TOGETHER” と題されたマニフェストが公開された。マニフェストの冒頭に「すべての人が暮らしやすい社会を」という内容を含む労働党

と、「EU 離脱交渉とその先の将来のために強いリーダーを」と書き出した保守党とで、前者は国内政策、後者はブレグジットというように、何を主張の中心とするかという点に違いが現れていた。若者に影響を与える具体的な政策は、まず労働党では①大学授業料の廃止[8]、②選挙権を 16 歳以上に拡大、③ソフトブレグジット[9]、④無償の国民教育制度、⑤最低賃金の引き上げ、⑥年間 100 万戸の建築、⑦ 0 時間雇用契約の禁止、⑧ NHS への支出の上限を撤廃、などが挙げられる（labour's manifesto 2017）。特徴としては、保守党政権下で削減されていた公共サービスなどへの支出を増やす、反緊縮政策であった。中でも、大学授業料廃止は特に注目度が高かった[10]（YouGov（4））。全体として「1945 年発足のアトリー政権を彷彿させるマニフェスト」（ブレイディみかこ, 2017）や「左派の見本となるマニフェスト」と評された（The Guardian（5））。2015 年総選挙のマニフェストはやや中道化していたため、支持層の関心を代表していないと批判されていた（水島, 2016）が、2017 年総選挙では左派としての主張により保守党とは異なる社会構想を提示してみせた。

対して、保守党のマニフェストでは①教育機関への予算を 40 億ポンド増加、②ハードブレグジット[11]、③ NHS への 80 億ポンドの支出増加、④ 2020 年までに 100 万戸の建築、などが挙げられる（conservative's manifesto 2017）。依然として、緊縮政策の継続という方針を掲げていた。教育や NHS への支出の増加が公約に掲げられているが、あくまでも削減していた予算を少し増やしたという見方が正しく、NHS への支出制限撤廃や教育の無償化を掲げている労働党の国内政策と比較すると飛びつくほどではなかった（ブレイディみかこ, 2017）。また、保守党が特に強調したハードブレグジットは、若年層の支持を得るのに効果的であったとは言い難い[12]。このように、今回の選挙で保守党のマニフェストの中に、若年層へ向けた政策は含まれていなかった（The Guardian（14））。実際、保守党のマニフェストに対する若者の見方は厳しく、調査では投票した若者のわずか 15％が「保守党が自分たちを代表している」と回答し、多くの若者が「保守党はより裕福な人々を代表している」と回答した[13]（The Guardian（4））。両党のマニフェストに対する有権者の反応は若者に限ることなく対照的であり、当初 20％近くあった支持率の差がマニフェストを発表した週には 12％まで一気に縮まったことからもイギリスの人々が両党のマニフェストをどう見たかということが窺える（若松, 2017）。

さらに調査会社の ICM によると、若者は「一番大切だと考える問題は何か」という問いに対して、54％が NHS、26％がブレグジット、22％が教育と回答していた（Independent（4））。両党のマニフェストを照らし合わせると、これら 3 つの項目に対し、労働党の掲げる NHS への支出増加と上限撤廃、ソフトブレグジット、教育の無償化などの政策が若者の望む内容と一致しており、労働党を支持する一因となっていたことが分かる。

2-3 労働党の選挙キャンペーン

2017年の選挙キャンペーンで、労働党は若年層に「有権者登録をさせる」、「労働党に投票させる」という2つに力を注いだ。

まず、今回の選挙で若年層への情報発信の手段として主力となったのがSNS[14]を用いたオンラインでのキャンペーンである（The Guardian（6））。

オンラインキャンペーンは労働党と保守党のどちらも行ったが、両党のキャンペーンには2つの相違点があった。第1の相違点は両党のSNSの使用頻度である。選挙期間中の両党党首の投稿回数を比較してみると、コービンはツイッターとフェイスブックを合わせて925回であったのに対して、メイの投稿回数は合わせて159回のみであった。また、同じく選挙期間内の両党の公式フェイスブックの投稿回数を比較してみると、労働党が450回の投稿であったのに対して、保守党は116回の投稿となっていた（newswhip, 2017, 6, 13）。さらに細かいデータでは、6月1日から投票日である8日までの1週間では、フェイスブック上での、コービンの217回の投稿に対して、メイは57回の投稿をしただけであった。また、投票日までの2日間では労働党が「投票に行こう」といった投稿を保守党の2倍以上行っていた（newswhip, 2017, 6, 13）。このように両党のSNSの使用頻度には大きな差が生じており、その分労働党のキャンペーンが若年層の目に触れる機会も多かった。

第2の相違点はSNSの内容である。保守党はSNSを用いて政策をアピールするというよりは、主にコービンへの攻撃、つまり強いリーダーとしてコービンは適当ではないという批判をした。これは保守党支持者以外に向けた外向きのネガティブキャンペーンである。一方、労働党は部分的にはメイや保守党の批判をしたものの、全体としてSNSを通じて、政策をアピールし、そこから若年層との間に一体感を作り出すことを目的としていた（The Guardian（6））。労働党は、この一体感こそ若者を投票に駆り立てるものであると重要視し、そのため投稿は、若者へ有権者登録や投票を呼びかける内容が中心であった。その一環として様々なハッシュタグ（#ForTheMany、#grime4corbyn、#votelabour、#mayoutなど）が投稿に使われた。その中でもマニフェストのテーマでもある#ForTheManyというハッシュタグの権利はおよそ5万ポンドかけて購入され、若者へのキャンペーンに大きな役割を果たした（The Guardian（6））。これらは保守党とは反対に、労働党の支持を強化する内向きのポジティブキャンペーンである。

さらに、コービンは今まで政治とは関わりの少なかった音楽業界、特にグライム[15]のアーティスト達とともに有権者登録や投票を促すキャンペーンを行った。グライムスターであるJMEが公式の動画に登場し、若者が「なぜ投票に行かないか」などを含めた政治の話から芸術、音楽に関する会談をしながら、有権者登録や労働党への投票を呼びかけた。これを皮切りにグライムアーティストが労働党やコービンを自身のSNSで応援するような内容の投稿や、労働党の公式動画に出演し「労働党は若者の将来をしっかりとサポート

する」といった呼びかけを行った（The Guardian（8））。その他にも有権者登録を促すためのイベント[16]がグライムアーティストと協力し、開催された（NME, 2017, 5, 15）。

加えて、モメンタム（Momentum）という組織の活躍があった（Independent（6））。モメンタムとは、2015年にコービンが党首に就任した後に形成された、若者を中心とする労働党の支持団体である。結成からわずか2年ではあるが、すでに3万人近くの会員を有する勢いを持っていた（Momentum, HP）。主にSNSを活用したオンラインでの宣伝と、戸別訪問などの草の根を中心として2年間活動していた。戸別訪問自体は以前から行っていたが、選挙の実施が決定して以降は、アメリカのバーニー・サンダース[17]陣営からの支援で、ノウハウを習い組織的な戸別訪問を実施した（The Guardian（12））。彼らは激戦区と予想される地域の大学や家庭を地道に一軒一軒回りながら、有権者登録や投票を呼びかけた。選挙区によっては「自分達しか戸別訪問を行っていなかった」と証言する者もいるように主流な方法ではないが、地道で泥臭い選挙戦で勝利を収めた（ブレイディみかこ, 2017）。

またモメンタムはSNS上で労働党を宣伝する広告や動画の作成に携わり、選挙キャンペーンで大きな役割を担っていた（Independent（6））。例えば、「パパ、なぜ私が嫌いなの（Daddy, why do you hate me?）」[18]という動画は、父娘の会話を通して労働党へ投票を促す内容で、SNS上で拡散され700万回以上再生された。他にも、「最も近い接戦区（my nearest marginal）」というサイトを作成、運営した。このサイトは、学生など、投票する選挙区を選択可能な人々に、どちらの選挙区で投票すればより効果的であるかを表示する機能があった（Independent（6））。実際、多くの若者が登録をしており、10万人以上が利用したという（The Guardian（3））。「たかが一票では」と考えがちではあるが、激戦区においては自分の投票次第で結果が変わる可能性を感じさせ、いくつかの選挙区で非常に効果的に作用した（The Guardian（3））。

以上のように、労働党のマニフェストの他にも様々な活動が若年層を取り込むために行われ、これらの活動が “youth-quake” と呼ばれる現象を引き起こした（The Guardian（16））。

2−4　労働党の若者への働きかけの結果

第2項、第3項では労働党による若者への具体的な働きかけを考察した。しかし、労働党の働きかけにより、実際に若者の選挙参加は促されたのだろうか。以下では、2017年総選挙において、どれくらい若者の有権者登録数は増加し、投票率は上昇したのかを考察する。

まず若者の有権者登録数の増加について検討する。メイ首相により2017年総選挙が公表された4月18日から5月22日[19]までの35日間で、約300万人が有権者登録を行った[20]。ここで一番注目すべきは、その3分の1以上が若者であったことである（YouGov（1））。また、5月22日だけで、約62万人が有権者登録を行った。これは、一日での有権

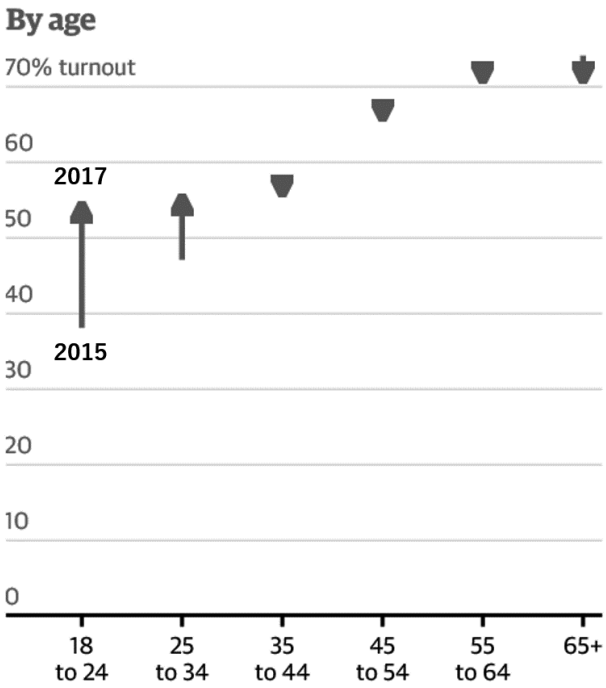

図 1　2015 年総選挙と 2017 年総選挙における年齢別の投票率

The guardian（15）https://www.theguardian.com/politics/datablog/ng-interactive/2017/jun/20/young-voters-class-and-turnout-how-britain-voted-in-2017（アクセス 2017/12/5）

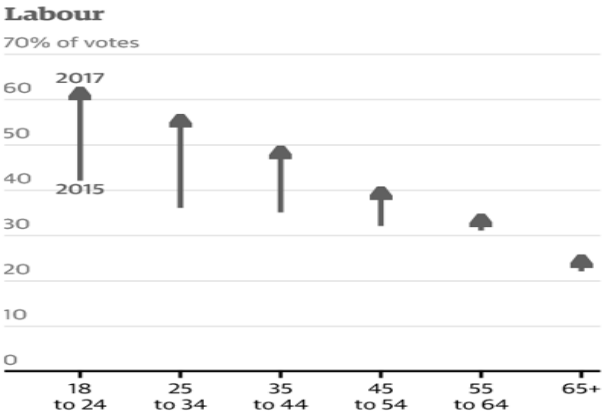

図 2　2015 年総選挙と 2017 年総選挙における年齢別の労働党への投票率の推移

The guardian（15）https://www.theguardian.com/politics/datablog/ng-interactive/2017/jun/20/young-voters-class-and-turnout-how-britain-voted-in-2017（アクセス 2017/12/5）

者登録数として過去最大の記録であった（Independent（2））。このように、2017年総選挙では、多くの国民（特に若者）が有権者登録を行ったといえる。

次に若者の投票率の上昇について検討する。2017年総選挙では、若者の投票率が2015年総選挙よりも16ポイント上昇した（図1）。また、学生の人口が多い選挙区では高い投票率の上昇が見られた（The Guardian（9））。

2017年総選挙では、労働党への投票率も2015年総選挙より上昇した。2017年総選挙から新しく投票をした人の約60％が労働党に投票した（Ipsos, 2017, 6, 20）。さらに、若者の労働党への投票率は、2015年総選挙から約20ポイントも上昇した（図2）。

2017年総選挙において、全体的には保守党への支持率が高かったのに対し、多くの若者は労働党を支持した（YouGov（3））。このような状況下で、若者の投票率の上昇は、労働党の対若者戦略が成功したことを意味しているといえよう。

3　若者の選挙参加と労働党の勝利の関係

3−1　大学と労働党の勝利した選挙区の関係

この節では、若者の選挙参加と労働党の勝利に関係性が存在するのかを、イギリス全体（第1項）とカンタベリー選挙区（第2項）の2つの視点から考察する。

2017年イギリス総選挙において、若者が多い選挙区では労働党への投票率の上昇がみられた。中でも、ブリストル西選挙区（Bristol West constituency）で16ポイント、カーディフ中央選挙区（Cardiff Central constituency）とカンタベリー選挙区では9ポイントと、この3つの選挙区の上昇は特に大きかった（BBC（7））。そして、この3つの選挙区には大学が存在した。そこで以下より、大学が存在する選挙区と労働党の勝利した選挙区とを比較し、それらに関係性が存在するのかについて検討する（図3）。

イギリスには49の選挙区に大学が存在し、2017年総選挙において、この中の32選挙区で労働党は勝利していた。そして、2017年総選挙で労働党が新しく獲得した9選挙区に、大学は存在した。このように、大学が存在する選挙区の多くで、労働党は勝利を収めていた。ゆえに、大学の存在する選挙区と労働党の勝利した選挙区には関係性が存在し、若者の人口が多いことは労働党の勝利に影響しているといえよう。

3−2　カンタベリー選挙区における若者の選挙参加と労働党勝利の関係

この項では、カンタベリー選挙区に焦点を当て、若者の選挙参加が労働党の勝利にどのように影響を与えたのかを考察する。

同選挙区は、イギリスで一番学生の多い選挙区だと言われている（BBC（2））。しかし、多くの若者は労働党を支持していたが[21]、同選挙区では1918年から2017年総選挙までの

図 3　大学の存在する選挙区と労働党の勝利した選挙区の比較

SI-UK http://www.studyin-uk.com/uk-study-info/uk-university-map/（アクセス 2017/10/19）、BBC（4）http://www.bbc.com/news/election-2017-40176349（アクセス 2017/10/19）をもとに筆者作成

約 100 年間、労働党は一度も勝利することが出来なかった。このような状況下で、2017 年総選挙において、労働党は 187 票という僅差で保守党に勝利した。なぜ今回労働党はカンタベリー選挙区で勝利することが出来たのだろうか。それは、若者の投票数の増加が影響していた。では、どのようにしてカンタベリー選挙区における若者の投票数は増加したのだろうか。

カンタベリー選挙区における若者の投票数の増加には大きく分けて、2 つの要因があった。第 1 に労働党による若者への働きかけ、第 2 に学生による選挙キャンペーンである。労働党による若者への働きかけでは、候補者の選択が大きく影響を与えた[22]。労働党の候

補者として出馬したロージー・ダフィールド（Rosie Duffield）は、とても精力的な候補者で頻繁に選挙運動を行った。さらに、彼女は、子どもに高い水準の教育を受けさせること、若者に十分な賃金が支払われること、若者が生活する際に十分な住宅の供給や賃貸を用意することなど、若者を重視した主張を展開し、多くの支持を獲得した（Canterbury Labour（2））。そして、カンタベリー選挙区には2016年国民投票において残留を支持していた学生や有権者が多く、ダフィールドも同様に残留を支持していた（Word Press, 2017, 10, 9）。これに対し、過去30年間保守党の候補者として同選挙区で勝利し続けていたジューリアン・ブレージア（Julian Brazier）は、ハードブレグジットを主張していた。このように、両候補者の主張は異なるものであった。

さらに、両候補者の選挙運動に対する姿勢も異なっていた。ブレージアは、選挙運動を怠っていたが、ダフィールドは、活発に選挙運動を行い、市民に直接働きかけを行っていた。例えば、ダフィールドはモメンタムとともに、2017年総選挙以前に労働党が票を獲得できていなかった地域で、頻繁に選挙運動を行った。また、労働党の議員であるコーノー・フィツモリス（Conor Fitzmaurice）は、ケント大学の大学寮で学生に有権者登録を呼びかける演説を行った。さらに、「影の内閣（シャドーキャビネット）」[23]の外相であるエミリー・ソーンベリー（Emily Thornberry）は、ダフィールドを応援するためにカンタベリーで演説を行い、直接市民にダフィールドへの投票を呼びかけた。モメンタムはこのイベントを彼らのフェイスブックで宣伝した。また、労働党はモメンタムの活動をホームページやフェイスブックで紹介し、モメンタムと労働党の相互の交流が行われた。モメンタムのほかに、労働党はKent Labour Students[24]という学生団体とも交流をしていた。以上のような、ダフィールドを中心とした労働党の運動や彼女の主張、学生団体との交流により、労働党は多くの若者の支持を集めることが出来たといえる。

2017年総選挙では、労働党の働きかけに呼応する形で、学生による若者への働きかけが多く生じた。その中でも、カンタベリー選挙区では学生による選挙キャンペーンが多く行われた（BBC（2））。同選挙区ではソーシャルメディア上での学生による選挙キャンペーンが特に多かった。このキャンペーンは、大きく分けて3種類存在した。これは、学生に有権者登録を勧めるもの、戦略的投票を勧めるもの、労働党への投票を勧めるものであった。学生に戦略的投票を勧めるものとは、学生は2つの選挙区で有権者登録をすることが可能であるため、投票する選挙区を慎重に選択することで、自分の1票をより有効に使えることを説明する内容であった。例えば、ある学生が労働党支持者であり、保守党の勝利がほぼ確定している選挙区か労働党と保守党が拮抗している選挙区のどちらかに投票できる場合、彼は後者の選挙区で労働党に投票した方が自分の1票により価値を与えることが出来るということである。学生による選挙キャンペーンは、労働党のホームページ上でも行われた。これは、ある学生による実体験をもとに書かれた文章で、保守党の候補者であ

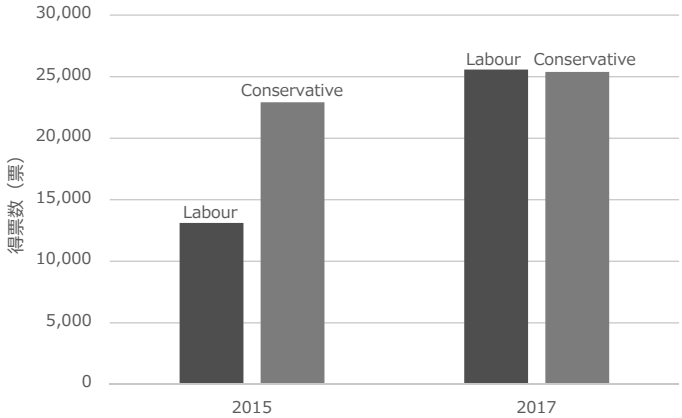

図 4　2015 年総選挙と 2017 年総選挙における労働党と保守党への投票数の比較

BBC（1）http://www.bbc.com/news/politics/constituencies/E14000619（アクセス 2017/11/8）をもとに筆者作成

るブレージアを批判するものであった（Canterbury labour（5））。

これらの学生による選挙キャンペーンにより、カンタベリー選挙区では約 8000 人が新しく有権者登録を行い、そのほとんどが学生であったと保守党は述べている。（BBC, 2017（2））。同選挙区の有権者総数は約 7 万 8000 人であり、今回新しく有権者登録をした人数は全体の 10 分の 1 以上を占めていた。そして、これはイギリスの全選挙区で 7 番目に高い上昇率であった（Canterbury Labour（3））。さらに、2017 年総選挙において同選挙区の投票率は 72.77％であり、2015 年総選挙と比較すると、6.79 ポイントも上昇した。そして、2015 年総選挙では労働党は保守党に約 1 万票も負けていたが、2017 年総選挙で労働党は 1 万 2000 票も新たに獲得し、187 票という僅差で保守党に勝利したのである（図 4）。

以上のことから、カンタベリー選挙区において若者の投票数が増加し労働党が勝利することが出来たのは、労働党による積極的な選挙活動とこの活動に賛同した学生または学生団体による選挙キャンペーンが頻繁に行われたことが影響していたのである。つまり、労働党と学生の働きかけの相乗効果により、労働党は勝利することが出来たといえる。

終わりに

本論文では、2017 年イギリス総選挙について労働党による若者への働きかけという視点から考察してきた。2017 年総選挙において、労働党は 2015 年総選挙より 32 議席増やし、保守党が過半数の議席を獲得することを防いだ。この労働党の躍進は、労働党が若者への働きかけを重点的に行った成果であった。マニフェストでは、大学の授業料の無償化やソフトブレグジットなど、若者の支持を獲得するための政策を掲げた。また、グライム

アーティストとコラボレーションし、若者の支持や投票数を上げるために様々な働きかけを行った。このような働きかけにより、若者の選挙参加が促され、労働党の躍進が成されたといえる。さらに、労働党が勝利した選挙区と若者の人口が多い選挙区には関係性があるという結論に達した。また、労働党が若者への働きかけを行ったことで、学生による学生への働きかけが頻繁に行われた。これにより、若者の間で選挙に参加するという大きな流れが生み出され、労働党は若者の支持を多く獲得することが出来たのであった。

2017 年イギリス総選挙における選挙キャンペーンには、選挙制度が大きく異なる日本にも見習うべき点がある。例えば、モメンタムのような若い世代を中心とする活動は、今後日本の若年層が積極的な政治参加を果たす為の参考になるだろう。

また上記の通り、イギリスの有権者登録制度は、議会の解散が決まってからでも投票資格を得ることが可能である。さらに、投票する選挙区の選択も可能であり、実家を離れている学生や社会人にも対応している。2017 年総選挙における労働党の選挙キャンペーンはこの 2 つの特徴を念頭に実施された。しかし日本は議会の解散から投票日までがイギリスよりも短く、有権者登録制度も無い。基本的には年齢を満たせば投票資格を得る。だが、地方選挙の場合、その地域に 3 か月以上住所を所有していないと投票できない（総務省 HP）。また、一人暮らしの大学生などが名簿登録地以外で投票するには様々な手続きが必要になる（総務省 HP）。今後、若者の投票率を上昇させるためには、まず現状を見直し、これらの問題に柔軟に対応可能な選挙制度や、より投票し易いシステムの導入が必要なのではないか。

注

1）以下、本論文では特に断らない限り、若年層、若者は 18〜24 歳と定義する。
2）2011 年 9 月 15 日に制定された議会任期固定法による。
3）保守党はアイルランドへ 10 億ポンドの投資と引き換えに、DUP の 10 議席を得るという合意をした（The Guardian（10））。
4）NHS（国民保健サービス）とは、無料で医療サービスを受けられるシステムである。だが、サービスを受けられるまで何週間も待たなければならない。また、保守党政権下で予算が削減される一方で、技術の高度化による単価の高額化、長時間勤務や待遇の不十分さによる医師・看護師の不足、病床の不足など、現状様々な問題を抱えており、十分なサービスを受けることができない。有識者には NHS は崩壊するとまで評されるほどの状況である（jetro, 2016, 10, 18）。
5）2014 年に有権者登録の方法が、毎年世帯主がその世帯の有権者の氏名を記入した書類を地域自治体に提出する方法から、各有権者が自らオンライン上または郵送で登録する方法に変わった。また、在学中の大学が位置する選挙区でも、大学が一括で学生の登録をするものから、各有権者がその地域でもオンライン上または郵送で登録する方法へと変わった（Stephen D. Fisher & Nick Hillman, 2014）。
6）投票した若者の約 75％が残留を支持していた（The Guardian（7））。
7）反緊縮政策に関しては第 2 節 2 項で後述する。
8）大学生が卒業時に負う借金の平均は 3 万 2000 ポンドであるため、大学進学を希望する若者を躊躇させ、また卒業生を苦しめていた（The Guardian（11））。

9）単一市場・関税同盟に留まるため経済的な打撃は比較的少ない。また、引き続き「もの、サービス、資本、人」の移動の自由を享受できる（Independent（7））。
10）調査会社 YouGov によると、「労働党のマニフェストと聞いて最初に思い出す政策は何か」という問いに対して、大学授業料廃止という回答が 1 番多かった（YouGov（4））。
11）EU 離脱派が支持する。単一市場・関税同盟から脱退するため経済的打撃が予想される。その代わりに国境への支配権を取り戻す（Independent（7））。
12）YouGov の調査で「EU 離脱が正しいかどうか」という問いに対して、若者の 56％が「間違っている」と回答していた（Independent（5））。
13）18～34 歳で「労働党が自分たちを代表している」と答えた人は、53％であった（The Guardian（4））。
14）本論文では、主にツイッター、フェイスブック、インスタグラム、スナップチャット、ユーチューブなどを意味する。
15）いわゆるラップであり、ロンドンの若者中心に人気を得ているジャンル。特にグライムは反政治的な内容の歌詞を含んでいるものも少なくないと言われている。
16）その一例として、Grim4Corbyn というタイトルを掲げた活動があった。具体的には、有権者登録をしてハッシュタグをシェアすると、ロンドンで行われるシークレットライブのチケット獲得する機会を得られるというものであった（NME, 2017, 5, 15）。
17）バーナード・“バーニー”・サンダース：2016 年のアメリカ大統領民主党予備選に出馬した上院議員。ニューヨークなどで草の根活動を行っており、若者の人気を得ている（Huffpost, 2016, 5, 23）。
18）2030 年を舞台に父娘が、父の若い頃には存在した無料の給食、公立学校の少人数のクラス、授業料の無い大学などの写真を見ながら会話をし、2017 年総選挙で保守党に投票した為に、父の時代とは変わってしまった、という皮肉を込めた内容。
19）2017 年総選挙に投票するための有権者登録の締め切り日（Express, 2017, 5, 22）。
20）2015 年総選挙においては約 150 万人が有権者登録を行った（Electoral Comission, 2015, 7）。
21）YouGov（3）を参照。
22）2015 年イギリス総選挙においてカンタベリー選挙区で労働党の候補者として出馬したヒュー・ラニング（Hugh Lanning）の主張は、フラッキング（水圧により石油や天然ガスを採取するもの）を廃止することなど若者に関わりのある主張が少なく、若者の支持を獲得することが出来なかった（Canterbury Labour（1））。
23）第一野党がいつでも政権の交代に対応できるように、与党の内閣と同じポジションを設定したもの。これはイギリスにおける慣習として毎回作られる。
24）2014 年 3 月 2 日に設立されたケント大学の公式な労働党コミュニティ。この団体は、多くの学生たちに有権者登録を行ってもらうため、大学のキャンパス内で有権者登録を勧める運動を行い、ソーシャルメディア上でも有権者登録や投票を呼びかけていた（Facebook（1））。

参考文献

［1］総務省ホームページ『選挙権と非選挙権』http://www.soumu.go.jp/senkyo/senkyo_s/naruhodo/naruhodo02.html（アクセス 2017/12/9）
［2］総務省ホームページ『投票制度』http://www.soumu.go.jp/senkyo/senkyo_s/naruhodo/naruhodo05.html#chapter2（アクセス 2017/12/9）
［3］ブレイディ・みかこ（2017）「イギリス総選挙で見せた左派の実力」『世界』八月号
［4］水島治郎（2016）『ポピュリズムとは何か―民主主義の敵か、改革の希望か』中公新書
［5］若松邦弘（2017）「2017 年イギリス総選挙の分析」『改革者』八月号
［6］Huffpost ホームページ『なぜ「サンダース現象」は勢いが衰えないのか―現地からの生の声を聞く』http://www.huffingtonpost.jp/2016/05/23/sanders_n_10102058.html（アクセス 2017/12/1）
［7］Jetro ホームページ『メイ首相は内政の 4 本柱の実現に向けて始動―英国の EU 離脱に関するセミナー開催（3）』https://www.jetro.go.jp/biznews/2016/10/61e94e30c4ff84ea.html（アクセス

2017/12/3）
［8］BBC（1）“Canterbury parliamentary constituency - Election 2017” http://www.bbc.com/news/politics/constituencies/E14000619（アクセス 2017/11/8）
［9］BBC（2）“Election Results 2017: Canterbury won by Labour for first time” http://www.bbc.com/news/uk-england-kent-40212652（アクセス 2017/11/12）
［10］BBC（3）“Election 2017: If more young people actually voted, would it change everything?” http://www.bbc.com/news/election-2017-39965925（アクセス 2017/11/28）
［11］BBC（4）“Election 2017: The result in maps and charts” http://www.bbc.com/news/election-2017-40176349（アクセス 2017/11/12）
［12］BBC（5）“Election 2017: Which seats changed hands?” http://www.bbc.com/news/election-2017-40190856（アクセス 2017/10/29）
［13］BBC（6）“Results of the 2017 General Election” http://www.bbc.com/news/election/2017/results（アクセス 2017/10/23）
［14］BBC（7）“UK election: Six key lessons from a surprise result” http://www.bbc.com/news/election-2017-40219338（アクセス 2017/11/6）
［15］BBC（8）“Voter registration to start in 2014” http://www.bbc.com/news/uk-politics-25433594（アクセス 2017/11/12）
［16］Canterbury Labour（1）“Hugh Lanning Labour candidate makes frack-free promise to Canterbury and Whitstable voters” http://epolhosting.co.uk/canterbury-clp/hugh-lanning-labour-candidate-makes-frack-free-promise-to-canterbury-and-whitstable-voters/（アクセス 2017/12/10）
［17］Canterbury Labour（2）“Labour announce Rosie Duffield as candidate” http://epolhosting.co.uk/canterbury-clp/labour-announce-rosie-duffield-as-candidate/（アクセス 2017/11/28）
［18］Canterbury Labour（3）“Rosie praises rise in voter registration in Canterbury” http://www.canterburylabour.org.uk/rosie-praises-rise-in-voter-registration-in-canterbury/（アクセス 2017/11/28）
［19］Canterbury Labour（4）“Scrap Local Plan and Start Again” http://www.canterburylabour.org.uk/scrap-local-plan-and-start-again/（アクセス 2017/12/10）
［20］Canterbury Labour（5）“Student explains why we need a new MP” http://www.canterburylabour.org.uk/student-explains-why-we-need-a-new-mp/（アクセス 2017/11/13）
［21］Conservative “The Conservative Party Manifesto 2017” https://www.conservatives.com/manifesto（アクセス 2017/10/3）
［22］Electoral Commission（2015）“Promoting voter registration at the May 2015 elections” http://www.electoralcommission.org.uk/__data/assets/pdf_file/0006/190941/May-2015-polls-public-awareness-activity-report.pdf（アクセス 2017/12/10）
［23］Evening Standard “How Jeremy Corbyn beat Theresa May in the social media election war” https://www.standard.co.uk/news/politics/how-jeremy-corbyn-beat-theresa-may-in-the-social-media-election-war-a3564746.html（アクセス 2017/11/22）
［24］Express “When is the deadline to register to vote for the general election TODAY? How to register” https://www.express.co.uk/news/politics/807435/general-election-2017-when-is-deadline-to-register-to-vote-UK-elections（アクセス 2017/12/10）
［25］Facebook（1）“Kent Labour Students” https://www.facebook.com/kentlabourstudents/（アクセス 2017/11/16）
［26］Facebook（2）“Momentum Canterbury” https://www.facebook.com/momentumcanterbury/（アクセス 2017/11/16）
［27］Huffpost（1）“Jeremy Corbyn To Target Young Voters As Deadline For New Labour Members Approaches” http://www.huffingtonpost.co.uk/2015/08/09/jeremy-corbyn-to-target-young-voters_n_7962638.html（アクセス 2017/10/13）

[28] Huffpost（2）“Why don't young people vote?” http://www.huffingtonpost.co.uk/One-Young-World/young-voters_b_7231054.html（アクセス 2017/11/27）
[29] Independent（1）“Britain's Political Revolution: How tactical voting and new dividing lines of age and education took effect” http://www.independent.co.uk/news/uk/politics/britains-political-revolution-general-election-2017-canterbury-tactical-voting-brexit-age-education-a7814931.html（アクセス 2017/12/1）
[30] Independent（2）“Election 2017: Record number of people register to vote on deadline day” http://www.independent.co.uk/news/uk/politics/election-uk-turnout-voters-registration-labour-tories-record-numbers-a7777931.html（アクセス 2017/12/1）
[31] Independent（3）“I once led a huge protest against the Lib Dems - but this general election, I'll be voting for them” http://www.independent.co.uk/voices/lib-dems-labour-tuition-fees-jeremy-corbyn-tim-farron-brexit-general-election-never-again-a7728616.html（アクセス 2017/11/28）
[32] Independent（4）“Nearly two thirds of young people 'absolutely certain' to vote in general election, poll finds” http://www.independent.co.uk/news/uk/politics/two-thirds-young-people-vote-icm-poll-general-election-hope-not-hate-national-union-of-teachers-a7771431.html（アクセス 2017/10/15）
[33] Independent（5）“The only way to avoid an 'Extreme Brexit' is to get young voters registered — whatever their political views” http://www.independent.co.uk/voices/brexit-extreme-general-election-2017-conservative-landslide-ukip-labour-young-people-vote-a7727621.html（アクセス 2017/12/1）
[34] Independent（6）“What happens to the Jeremy Corbyn-backing organisation after the general election” http://www.Independent.co.uk/news/uk/politics/momentum-what-happens-jeremy-corbyn-post-general-election-2017-labour-defeat-hard-left-wing-a7777506.html（アクセス 2017/11/24）
[35] Independent（7）“What is the difference between hard and soft Brexit? Everything you need to know” http://www.independent.co.uk/news/uk/politics/brexit-hard-soft-what-is-the-difference-uk-eu-single-market-freedom-movement-theresa-may-a7342591.html（アクセス 2017/12/3）
[36] Ipsos MORI “How Britain voted in the 2017 election” https://www.ipsos.com/ipsos-mori/en-uk/how-britain-voted-2017-election（アクセス 2017/12/1）
[37] Kent news “'She is from the University of Life'” http://www.kentnews.co.uk/news/she-is-from-the-university-of-life-how-rosie-duffield-became-canterbury-s-first-labour-mp-1-5063869（アクセス 2017/11/28）
[38] Labour “Manifesto - The Labour Party” https://labour.org.uk/manifesto/（アクセス 2017/10/3）
[39] Manchester 1824 “Why don't young people vote?” http://blog.policy.manchester.ac.uk/featured/2015/05/why-dont-young-people-vote/（アクセス 2017/11/2）
[40] Momentum “A new kind of politics” http://www.peoplesmomentum.com/（アクセス 2017/12/6）
[41] My nearest marginal “My Nearest Marginal! Where should I canvass?” https://mynearestmarginal.com/（アクセス 2017/11/17）
[42] NEWSWHIP “How Labour and Jeremy Corbyn won the UK social media election, in three charts” https://www.newswhip.com/2017/06/labour-won-uks-social-media-election/（アクセス 2017/11/22）
[43] NME “New #grime4corbyn campaign offers young voters chance to attend 'secret grime rave” http://www.nme.com/news/music/new-grime4corbyn-campaign-offers-young-voters-chance-attend-secret-grime-rave-2072153（アクセス 2017/11/6）
[44] SI-UK “UK University Map” http://www.studyin-uk.com/uk-study-info/uk-university-map/（アクセス 2017/10/29）
[45] Stephen D. Fisher & Nick Hillman（2014）“Do students swing elections? Registration, turnout and voting behaviour among full-students” http://www.hepi.ac.uk/wp-content/uploads/2014/12/VERY-

FINAL-CLEAN-PDF.pdf（アクセス 2017/10/23）
［46］Telegraph “Conservatives lose Canterbury after 99 years” http://www.telegraph.co.uk/news/2017/06/09/conservatives-lose-canterbury-99-years/（アクセス 2017/10/23）
［47］The Guardian（1）“apathy or antipathy? Why so few young people vote” https://www.theguardian.com/society/2015/apr/19/why-young-people-dont-vote-apathy-or-antipathy-election-2015（アクセス 2017/11/2）
［48］The Guardian（2）“Ed Miliband warns Britain could leave EU if young people don’t vote” https://www.theguardian.com/politics/2016/may/28/ed-miliband-warns-britain-could-leave-eu-if-young-people-dont-vote（アクセス 2017/11/18）
［49］The Guardian（3）“How Jeremy Corbyn turned a youth surge into general election votes” https://www.theguardian.com/politics/2017/jun/10/jeremy-corbyn-youth-surge-votes-digital-activists（アクセス 2017/10/23）
［50］The Guardian（4）“Jolt for Tories as poll suggests under-45s switching to Labour” https://www.theguardian.com/politics/2017/sep/30/poll-conservatives-jeremy-corbyn-young-people（アクセス 2017/10/10）
［51］The Guardian（5）“Labour’s manifesto is a template for the struggling left worldwide” https://www.theguardian.com/commentisfree/2017/may/16/labour-manifesto-left-election-social-democracy（アクセス 2017/10/4）
［52］The Guardian（6）“Labour won social media election, digital strategists say” https://www.theguardian.com/politics/2017/jun/09/digital-strategists-give-victory-to-labour-in-social-media-election-facebook-twitter（アクセス 2017/11/14）
［53］The Guardian（7）“Meet the 75%: the young people who voted to remain in the EU” https://www.theGuardian.com/politics/2016/jun/24/meet-the-75-young-people-who-voted-to-remain-in-eu（アクセス 2017/11/19）
［54］The Guardia（8）“Stay involved': grime stars hail young voters turning out for Labour” https://www.theguardian.com/music/2017/jun/09/stay-involved-grime-stars-hail-young-voters-labour-grime4corbyn-jme-stormzy（アクセス 2017/11/11）
［55］The Guardian（9）“Students inspired by Corbyn played big role in Labour surge” https://www.theguardian.com/politics/2017/jun/09/students-inspired-by-corbyn-played-big-role-in-labour-surge（アクセス 2017/11/16）
［56］The Guardian（10）“Tory-DUP £1bn deal: crowdfunded legal challenge reaches high court” https://www.theguardian.com/politics/2017/oct/26/tory-dup-1bn-deal-crowdfunded-challenge-reaches-high-court（アクセス 2017/11/28）
［57］The Guardian（11）“UK student loan debt soars to more than £100bn” https://www.theguardian.com/money/2017/jun/15/uk-student-loan-debt-soars-to-more-than-100bn（アクセス 2017/12/3）
［58］The Guardian（12）“What made the difference for Labour? Ordinary people knocking on doors” https://www.theguardian.com/commentisfree/2017/jun/12/labour-knocking-on-doors-jeremy-corbyn-momentum（アクセス 2017/10/8）
［59］The Guardian（13）“Young people on the general election: 'Corbyn’s on our side, not like May” https://www.theguardian.com/politics/2017/jun/10/jeremy-corbyn-young-people-on-election（アクセス 2017/11/26）
［60］The Guardian（14）“Young people voted because Labour didn’t sneer at them. It’s that simple” https://www.theguardian.com/commentisfree/2017/jun/09/young-people-vote-labour-offered-change-hope-decent-future（アクセス 2017/11/28）
［61］The Guardian（15）“Young voters, class and turnout: how Britain voted in 2017” https://www.theguardian.com/politics/datablog/ng-interactive/2017/jun/20/young-voters-class-and-turnout-how-britain-voted-in-2017（アクセス 2017/12/5）

［62］The Guardian（16）"'Youthquake' behind Labour election surge divides generations" https://www.theguardian.com/politics/2017/jun/20/youthquake-behind-labour-election-surge-divides-generations（アクセス 2017/12/06）
［63］Word Press "So why DID Labour win Canterbury?" https://canterburypolitics.wordpress.com/2017/10/09/so-why-did-labour-win-canterbury/（アクセス 2017/11/16）
［64］YouGov（1）"Dashboard - Voter registration" https://www.gov.uk/performance/register-to-vote/registrations-by-age-group（アクセス 2017/10/23）
［65］YouGov（2）"Go online Register to vote" https://www.gov.uk/government/uploads/system/uploads/attachment_data/file/567259/register_to_vote_living_in_england_and_wales_easy_read.pdf（アクセス 2017/11/13）
［66］YouGov（3）"How Britain voted at the 2017 general election" https://yougov.co.uk/news/2017/06/13/how-britain-voted-2017-general-election/（アクセス 2017/11/28）
［67］YouGov（4）"people recall about conservative and labour campaign" https://yougov.co.uk/news/2017/07/12/what-were-britons-main-memories-conservative-and-l/（アクセス 2017/10/3）
［68］YouTube（1）"daddy, why do you hate me?" https://www.youtube.com/watch?v=Edt3d0xjEdU（アクセス 2017/11/17）
［69］YouTube（2）"Jeremy Corbyn's #Claim Your Future Speech" https://www.youtube.com/watch?v=BHp9eoKFpgU（アクセス 2017/10/13）
［70］Your Vote Matters "Home" https://www.yourvotematters.co.uk/（アクセス 2017/11/8）